

2024 年度第 6 回理事会議事録(協議事項抜粋)

開催日時:令和 6 年 10 月 22 日(火) 16:00~17:00

開催場所:静岡商工会議所 403 会議室および Zoom によるハイブリッド会議

(2) 協議事項

① 久保田理事長からの提案「SIIA 部会役割と協会方針」

久保田理事長から、前回理事会における協議の結果を踏まえ、引き続き「SIIA 部会役割と協会方針」について議論を行った。

先ず、理事長から前回の理事会における協議の内容をまとめた4項目の提示があった。

- 1) 部会の名称に関して、「人財」に関しては、「育成教育研修」と「開拓推進」の両部会の色合いに、またビジネスマッチングという名称が事業をイメージしにくいところがあるのではないか？
- 2) 事業予算の付け方については、より柔軟性のあるものにすべきではないか？
- 3) 事業推進にあたり、理事会の年間開催回数の低減や開催方法にオンラインを取り入れるなどして負担を軽減する一方で、運営委員を増員し、若手・中堅に運営を任せたらどうか？
- 4) 当協会事業の市に対する貢献度の可視化を高めるべきではないか？

以上の提案を受けて、出席理事、監事ならびにオブザーバー(静岡市産業政策課)の全員に意見を求めたが、その内容をまとめると…

- 1) 部会の名称については、「現状の名称が実態に即していない」、「イメージしにくい」などの意見が多く、「人財育成教育研修」と「人財開拓推進」については、共に「人財」という字句を省いて「教育・研修」、「採用」といったシンプルな名称への変更の提案があった。また、「マッチング」というフレーズは事業の内容に誤解を招くので、より相応しいものとして「交流」というキーワードが提示された。また、学生など若い人たちにも理解を得るために、「分かりやすく」、「ICTのイメージをソフトタッチに伝える」ものが求められるという意見もあった。
- 2) 理事会の予算の付け方については、最初から各部会の事業に全ての予算を固定するのではなく、ある程度柔軟性のある予備費的な枠を設けたらどうかという提案があった。

これに対しては、予備費を過大にすると事業計画の内容が不明瞭になるため、ある程度柔軟性のある計画案を作成したうえで、必要に応じて理事会において予算承認を得るような形にしたかどうかとの指摘があった。

- 3) 事業の運営に関しては、参加者が固定化されてしまう現状を見ると、これからは事業のボリュームを減らし、あまり「風呂敷を広げず」に選択と集中を図る必要があるといった意見があった。
- 4) 協会の役割を考えると、会員企業が主導する形の事業は難しい。例えば、官学が中心となっていく社会貢献事業などでは、協会としてそれをサポートして行くことは可能との意見があった。

以上のような各位の発言により、今回の意見をまとめ上げて、次回理事会までに次年度に向けた提案を行いたい旨久保田理事長から発言があり、今回の協議を終了した。